

リスクマネジメント経営の実践！

第2回 迷いの扉は、経営の原点に立ち戻り…

21世紀、経営は変わりました。「守られた時代から自己責任時代」に。それが2006年5月、従来の商法から新会社法への移行でした。「損失の危険に関する規定と体制」という一文ですが、取締役の責任として明文化されたことは間違いありません。さらに、07年9月施行の金融商品取引法により、上場企業は自社の責任を負う対象として、部品メーカーなどの出入り業者の責任も一緒に負うこととなりました。最近の例では、トヨタのアメリカ部品メーカー、パロマ社の取締役への刑事事件の判決、「下請けのサービス会社が勝手に改良、直したとしても、メーカーとしての責任を負うべきではないか」という判決です。これらの流れから、自己責任経営を実践する企業だけが生き残れる時代、つまり、リスクマネジメント経営ができる企業だけが生き残れる時代が来たのです。

そこで、経営をもう一度、一緒に考えてみたいと思います。その前に、法人・企業の定義ですが、「法人とは法の下に人格権を持った、社会に貢献するための集合体である」「社会貢献とは、安定的な雇用、安定的な商品・サービスの提供、安定的な納税をもって社会に貢献する」これが企業存続の意義です。

次に発展。「発展することにより、新しい商品・サービスの提供、新しい雇用、新たな納税をもって社会に貢献する」が発展の意義でした。

そのために必要な集合体を企業と呼びます。その企業体はいろいろな営みの上に、「込み入った事情や物事の経過(リスク)」を生みます。その変化に対応するために「方針を決め、組織を

整えて、目的(社会貢献)を達成するよう持続的な活動を行なう」のが「経営」です。その経営を任せられたのが経営者であり取締役というわけです(辞書より)。

ここで申し上げたいことは、経営者は何度も迷うことがあります。今も迷っていらっしゃる経営者の方も多いでしょう。迷った時に、この経営の原点を思い出していただきたいのです。そうすれば、少しでも迷いの扉が開き始めます。そして、次に向かって歩き始めることができると思うのです。

こうした基本形をしっかりと認識した上で、自己責任経営、リスクマネジメントに取り組んでいただきたいと思います。

さて、ここでリスクマネジメントとは何か？ということですが、「リスクを念頭に置き、Yes・Noを早く・正しく決断することにより、企業の最大価値を達成するための経営管理システム」となります。したがって、リスクマネジメントを行なうことによって、企業価値の最大化、つまり、売上の上昇、利益の最大化が計れるのです。

リスクマネジメントを「後ろ向き」ととらえる経営者も多いと思いますが、それは違います。リスクマネジメントは「冒険管理」であり、前向きな発想です。ぜひ、リスクを恐れるのではなく、前向きに管理していこうという考え方を、企業人として持っていただきたいものです。

時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自ずと時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

パロマ工業元社長ら有罪 不正改造後も管理義務

パロマ工業の湯沸器の死亡事故で、元社長たちが有罪判決となった。この裁判は、企業における下請けなどの管理責任はメーカーにある、と明確に表した判決で、今後のメーカーなどにとって、重大な判決となることだろう。

2007年施行の金融商品取引法で、発注者側が責任を負わなければならないこととなった。この裁判は、そうしたことを背景とした刑事事件では異例の判決だ。これにより発注者側から受注者側への管理が強化されることは間違いないだろう。

同様に、トヨタのリコール問題を受け、日産自動車は部品メーカーの管理のために、5,000人を配置とか。ソニーなどもCSR調達の名の下に取引先を半分以下にする。下請けのリスクマネジメントが必須となる時代がやってきた。

クラウド 広がる… 巨大システム、短期間で

コンピューターの世界に変革が起きている。クラウド(雲)、これは、今まで企業や個人が自前の高性能コンピューターやソフトを揃えてきたものが、クラウドを活用することで、これらITシステムが不要となるのだ。

所有から使用へという定義だが、自社にデータを保有するのではなく、ネットで情報を出し入れする。これを行なうことで、企業は40～70%の管理コストの削減など、大きなメリットがあるようだ。そうすると、自社のコンピューターの記憶媒体が必要なくなる。つまり、コンピューター本体の価格も大幅に減少できるということだ。まさに、コンピューター革命と言ってよさそうだ。

また、大規模なシステム開発も、従来3ヶ月掛かったものが、クラウドを活用することで、2週間でできるなど、速さも売りとなるようだ。

本コーナーは、(株)日本アルマック主催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

「口呼吸が免疫力を低下させる」と云われても、ピンと来ないかもしれません。あなたは、鼻ではなく、口で息を吸っていませんか？どちらでも構わないじゃないか！とおっしゃるなかれ、大きな違いがあるんです。花粉症や化学物質過敏症等のアレルギー性疾患、高血圧やうつ病等、様々な疾患が、実は口呼吸が原因になっていることが多いそうです。子どもの集中力のなさも然り。「私はいつでも鼻呼吸！」と安心している方も、朝起きた時、口が何んとなく乾いて喉が痛いと思うことがあったら、要注意。日本人の半数以上が口呼吸しているという記述も見かけます。「はぁ〜」と口から吐く大きなためいきも、免疫力を低下させるそうです。口臭やいびきに悩む方も、そのご家族も、舌筋を鍛えて舌を正しい位置に戻し、口の中を乾燥させず、《脱 口呼吸！》で、健康家族を目指したいものです。詳しくは、今井一彰氏(みらいクリニック院長)著書「免疫を高めて病気を治す口の体操『あいうべ』」を参照下さい。(櫻井)



2010年6月発行 定価378円(税込)

株式会社 日本アルマック

〒102-0083
東京都千代田区麹町4-5桜井ビル4F
TEL:03-3288-2755 FAX:03-3288-2757
URL: <http://www.almac.co.jp>

ご意見・ご要望は上記までお寄せください。